

おかあさんのおべんとう

2年 ものがたり文 6ばん

なまえ

えんそくの朝、まなは早おきをしました。だいどころで、おかあさんがとんととおべんとうを作っていました。

「まなのすきなたまごやき、入れておいたよ。」お母さんは、ねむそうな目をこすりながらわらいました。まなは、お母さんがじぶんよりずっと早くおきていたことに気がつきました。

おひるにおべんとうのふたをあけると、いろいろなたまごやきがきらきらして見えました。おかあさんが早くおきて作ってくれたと思うと、いつもよりずっとおいしく感じました。

家に帰ると、まなは言いました。「おべんとう、ぜんぶ食べたよ。ありがとう。」



(1) 「きらきらして」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア くらくて、よく見えないようす
イ 光って、かがやいているようす
ウ 小さくて、かたいようす

エ つめたくて、ひんやりしたようす

(2) まなは、お母さんのどんなことに気がつきましたか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。
ア かぜをひいていたこと。

イ たまごやきを作れなかったこと。
ウ えんそくにいっしょに行くこと。

エ じぶんよりずっと早くおきていたこと。

(3) お母さんは、おべんとうに何を入れておいたと言いましたか。文しうから五字で書きぬきましょう。

(4) まなが、いつもよりずっとおいしく感じたのはなぜですか。書きましょう。

書き方のヒント

三つ目のだんらくの「いつもよりずっとおいしく」の前を見てみよう。
「くから。」でおわらせる。

おかあさんのおべんとう

こたえ

2年 ものがたり文 6ばん

なまえ

えんそくの朝、まなは早おきをしました。だいどころで、おかあさんがとんととおべんとうを作っていました。

「まなのすきなたまごやき、入れておいたよ。」お母さんは、ねむそうな目をこすりながらわらいました。まなは、お母さんがじぶんよりずっと早くおきていたことに気がつきました。

おひるにおべんとうのふたをあけると、いろいろなたまごやきがきらきらして見えました。おかあさんが早くおきて作ってくれたと思うと、いつもよりずっとおいしく感じました。

家に帰ると、まなは言いました。「おべんとう、ぜんぶ食べたよ。ありがとう。」



(1) 「きらきらして」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア くらくて、よく見えないようす

イ 光って、かがやいているようす

ウ 小さくて、かたいようす

エ つめたくて、ひんやりしたようす

(2) まなは、お母さんのどんなことに気がつきましたか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。
ア かぜをひいていたこと。

イ たまごやきを作れなかったこと。

ウ えんそくにいっしょに行くこと。

エ じぶんよりずっと早くおきていたこと。

(3) お母さんは、おべんとうに何を入れておいたと言いましたか。文しよから五字で書きぬきましょう。

た ま ご や き

(4) まなが、いつもよりずっとおいしく感じたのはなぜですか。書きましょう。

(れい) お母さんが早くおきて作ってくれたと思ったから。

書き方のヒント

三つ目のだんらくの「いつもよりずっとおいしく」の前を見よう。
「くから。」でおわらせる。

解答・解説 おかあさんの おべんとう（2年・ものがたり文）

この話はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません。

もん 問1 イ

三つ目の だんらくに「きいろい たまごやきが きらきらして 見え^みました」と 書いて^か あります。光^{ひか}って、かがやいて 見え^みる ようです。

もん 問2 エ

二つ目の だんらくに「お母^{かあ}さんが じぶんより ずっと 早く^{はや} おきていた ことに 気が^き つきました」と 書いて^か あります。

もん 問3 たまごやき

二つ目の だんらくで、お母^{かあ}さんが「まなの すきな たまごやき、入れて おいたよ。」と 言^いっています。

もん 問4 （れい）お母^{かあ}さんが 早く^{はや} おきて 作^{つく}ってくれたと 思^{おも}ったから。

三つ目の だんらくに「お母^{かあ}さんが 早く^{はや} おきて 作^{つく}ってくれたと 思^{おも}うと、いつもより ずっと おいしく かんじました」と 書いて^か あります。お母^{かあ}さんが 早く^{はや} おきて 作^{つく}ってくれた ことが 書^かけて いれば ○です。